

○ 本校の概要

教育目標 ○心ゆたかな子 ○ともに学ぶ子 ○たくましく生きる子

目指す学校像 ○児童にとって、安心して自分を表現でき、目標をもってがんばる過程が認められ、自己肯定感が育まれる学校 ○保護者にとって、安心して通わせることができ、子供たちのために協力したいと思える学校 ○地域にとって、親しみと誇りを感じる存在で、学校の活動を応援・支援したいと思える学校 ○教職員にとって、改善に向けた取組の成果や学校組織の一員としての貢献を実感できる学校

学校経営の方針 (1)知、徳、体のバランスのとれた生きる力を育成する。(2)意欲あふれる学びの場や学びの機会をつくる。(3)児童一人ひとりに寄り添う教育を推進する。

大項目	目標	取組内容	取組指標	取組評価	目標に対する成果指標	成果評価	これまでの取組 今後の改善策	学校関係者記入欄		
								評価	人数	コメント
プラン1 未来社会を創造的に生きる子供	コミュニケーション能力、情報活用能力、ともに生きる力等、これからの社会の変化にかなう子どもの力と自信を身に付けます。	外国語教育指導員を効果的に活用し、外国の方々とコミュニケーション能力の育成等を図っている。	4:「おおむねできた」と全教員が回答した。 3:80%以上が回答した。 2:60%以上が回答した。 1:60%未満であった。	4	4:80%以上	82.53%	今年度、(1~6年)の全学級でのタブレットを活用した授業、高学年でのMESHを活用したプログラミングの授業を行い、ICT機器を活用した授業を推進してきた。	A	5	○いよいよ1人1台のタブレット端末配備となります。ICTを活用した教育活動に期待します。濃厚接触で出席停止となった場合の学びの保障の充実も願っています。 ○コロナ禍の中で学習指導要領改定で、外国語やタブレット、そして、校長先生も自ら体育の授業で指導されている姿を見てとても嬉しく思います。
		論理的、科学的な思考力の育成を目指し、「おたのしみづくり」を生かした体験活動や理数授業等を実施する。	4:全教員が行った。 3:80%以上の教員が行った。 2:60%以上の教員が行った。 1:60%未満であった。	4	3:70%以上 80%未満		理科では巡回指導専門員の指導と理科支援員の支援を受け、理科実験の充実を図り、理科好きの子どもの育成を図った。	B	1	
		学力の定着と学ぶ意欲の伸長を目指し、ICT機器を活用した授業を実施する。	4:設置教室を使用する全正規教員が週1回以上活用した。 3:80%以上の正規教員が週1回以上活用した。 2:60%以上の正規教員が週1回以上活用した。 1:60%未満であった。	4	2:60%以上 70%未満		また、校内研究「教えて考えさせる授業」を通して、友達と話し考えの交流をすることで、自分の考えが広がり深まりることを感じられる授業となるよう、授業改善を進めてきた。	C	0	
		他者の人権を尊重する人権教育の推進を目指し、人権教育資料等を活用した授業を実施する。	4:対象となる全学級(全教員)で行った。 3:80%以上で行った。 2:60%以上で行った。 1:60%未満であった。	4	1:60%未満		今後も、「十の約束」を徹底することで学校全体の学習規律を向上させ、社会の変化に対応する児童の力を付ける教育活動を行っていく。	D	0	
		体力テストの結果を踏まえ体力向上全体計画を作成し、計画に基づいた体育指導や「一校一取組」運動や「一学級一実践」運動を実施する。	4:全教員で行った。 3:80%以上の教員で行った。 2:60%以上の教員で行った。 1:60%未満であった。	4	1:60%未満					
プラン2 学力の向上	児童・生徒一人ひとりの学ぶ意欲を高め、確かな学力を定着させます。	学習カルテを基に児童・生徒と面談し、一人ひとりの学習のつまずきや学習方法について、指導する。	4:対象となる全学級(全教員)で行った。 3:80%以上で行った。 2:60%以上で行った。 1:60%未満であった。	4	4:80%以上	72%	算数少人数指導、学習指導講師による習熟度別少人数指導、各学年週1回の放課後補習指導、年6回の土曜補習を行い、個に応じた学習指導、学習支援を行い、一人一人の確かな学力の育成に努めた。	A	5	○土曜補習では、自分の弱点を克服し、意欲的に取り組む児童が多々見られました。 ○算数は積み重ねが大切です。少人数での指導で理解出来た時の喜びや楽しさを全ての児童にそそいでください。 ○昨年3~5月の臨時休業による学習の遅れをどの程度取り戻せたのか、取り戻すためにどのような工夫をしたのか、お伺いしたかったです。
		算数・数学到達度をステップ学習チェックシートで児童・生徒、保護者に知らせる。	4:学期毎に知らせた。 3:年度間に1回は知らせた。 1:お知らせできなかった。	3	3:70%以上 80%未満		年6回の東京ベーシックドリル診断シートの実施で、児童個々の理解状況をより細やかに把握し、学習内容の定着を促進した。今後、タブレットを利用して、学習内容を復習する方法の一つとして、ベーシックドリル電子版を学校、家庭学習で活用していく。	B	1	
		学習指導講師等による算数・数学・英語の補習を実施する。	4:対象児童・生徒への出席を全教員が働きかけた。 3:80%以上の教員が働きかけた。 2:60%以上の教員が働きかけた。 1:60%以下の教員が働きかけた。	4	2:60%以上 70%未満		昨年11月に実施した期末テストの達成率が70%以上の児童の割合	C	0	
		授業改善推進プランを、授業に生かす。	4:「おおむねできた」と全教員が回答した。 3:80%以上が回答した。 2:60%以上が回答した。 1:60%未満であった。	4	1:60%未満		昨年11月に実施した期末テストを全学年日程を統一して実施し、実施前1週間の各自学習計画を計画し、実施後の振り返りを家庭の協力も得て行った。今後も学習内容の確実な習得に向けて授業と補習体制の充実にも努めていく。	D	0	
		東京ベーシックドリルを活用し、前学年学習内容の習得率を向上させる。	4:習得率7割以上の児童が8割以上だった。 3:習得率7割以上の児童が7割以上だった。 2:習得率7割以上の児童が6割以上だった。 1:習得率7割以上の児童が6割未満だった。	3	1:60%未満					
プラン3 豊かな心の育成	子ども一人ひとりの正義感や自己肯定感、自己有用感などを高めるとともに、自他の生命を尊重する心を育成するなど、未来への希望に満ちた豊かな心をはぐくみます。	小中一貫による教育の視点に立った生活指導の充実により、社会のルールや学校のきまりなどを守ろうとする意識を高める。	4:全教員が行った。 3:80%以上の教員が行った。 2:60%以上の教員が行った。 1:60%未満であった。	4	4:80%以上	92.0%	中学校区で学習規律・生活スタンダードをテーマとし、学区内の各校で一致して指導を行うことができた。	A	6	○児童アンケートで、「係の仕事をしっかりやっている」「あいさつをしている」「チャイムを守っている」などの規範意識が高いのはよいことです。一方、教職員学校評価では、「社会の一員としての意識が身に付いている」「自主的、自発的な行動ができていく」の評価は高くないため、そのギャップが気になります。 ○民生委員の皆さんやスクールサポートの皆様方には感謝の気持ちでいっぱいです。遅刻しても学校へ登校してくる児童が、まず大切だと感じています。 ○朝のあいさつも3年目ですが、心配していたおさんもきちんと立ち止まって挨拶する姿にほっとしました。 ○毎朝のあいさつ運動に参加して子どもたちの日々の様子、変化が見てとれます。大変成長しています。立派です。それには、まず大人がお手本とならなければいけないことだと思います。 ○先生方の熱意を感じます。
		道徳教育推進教師を講師とした研修や、国、都及び区の資料を活用した授業等を行う等道徳指導充実のための取組を行う。	4:学期に2~3回(年間6回)以上行った。 3:学期に1回(年間3回)以上行った。 2:年度間に1回以上行った。 1:実施しなかった。	3	3:70%以上 80%未満		中学校区で学習規律・生活スタンダードをテーマとし、学区内の各校で一致して指導を行うことができた。	B	0	
		学校生活調査(メンタルヘルスチェック)の結果よりストレス症状のみられる児童・生徒に対して組織的に対応する。	4:「組織的対応ができた」と全教員が回答した。 3:80%以上の教員が回答した。 2:60%以上の教員が回答した。 1:60%未満であった。	3	2:60%以上 70%未満		学校生活調査結果はもとより、日々、児童の心情に寄り添い、その気付きを日常的な報告・連絡・相談で共有し、必要な具体的な支援を行った。	C	0	
		学校いじめ防止基本方針に沿って、いじめの未然防止、早期発見等のための取組を実施する。	4:「組織的対応ができた」と全教員が回答した。 3:80%以上の教員が回答した。 2:60%以上の教員が回答した。 1:60%未満であった。	3	1:60%未満		毎週1回、校内支援委員会にて支援の必要な児童についての情報交換、支援の方針と具体的な対応についての検討、決定を行った。	D	0	
		問題行動・不登校問題等にかかわる児童・生徒に関するケース会議等を実施する。	4:必要な事案に対して必ず会議を実施し、組織的に対応した。 3:必要な事案に対しておこなった会議を実施した。 2:必要な事案に対してあまり協議を実施しなかった。 1:必要な事案に対してほとんど会議を実施せず、組織的な対応をしなかった。	4	1:60%未満		民生委員、主任児童委員の方との不登校支援会議において、毎月1回情報共有を図り、具体的な対応についての意思決定や役割分担を行い、児童並びに保護者を支援した。			
学習・生活スタンダードに基づき、子どもたちがきまりを守って学校生活を送れるようにする。	4:全教員で行った。 3:80%以上の教員で行った。 2:60%以上の教員で行った。 1:60%未満であった。	4	1:60%未満							
プラン4 健康の体力増進の向上と	スポーツに親しむ心の育成や、運動習慣の定着による体力の向上など、生涯にわたって健康増進を図る意識の向上をめざします。	「早寝・早起き・朝ごはん」月間の取組等を通して、児童・生徒や保護者に対し、望ましい生活習慣についての意識啓発を行う。	4:全教員で行った。 3:80%以上の教員で行った。 2:60%以上の教員で行った。 1:60%未満であった。	4	4:80%以上	73%	本年度は感染症対策のため、十分な実施ができなかったが、対策を取りながら実施可能な範囲で身体を動かす機会を増やしてきた。体育では、児童自身が、目標や練習計画、練習方法を考え、主体的に運動に親しむよう授業設計し、運動する楽しさを味わうことができるよう今後も授業の工夫をしていく。	A	6	○窓を開けて静かに黙食するつもりですが、食べ物の大切さ、作ってくださった栄養士・給食の皆さんに感謝の気持ちを忘れずに食事を、お米一粒汗一粒。 ○コロナ禍による自粛生活で、児童の体力が落ちていないか心配です。学校での運動会等の確保の重要性が増していると思います。
		給食指導及び教科等における指導を通して、食生活の充実・改善をねらった「食育」を推進する。	4:全教員で行った。 3:80%以上の教員で行った。 2:60%以上の教員で行った。 1:60%未満であった。	3	3:70%以上 80%未満		食育を推進し、基本的な生活習慣確立など健康な体の育成を進めていく。	B	0	
		体育的行事、部活動、休み時間など様々な機会を通して運動習慣の確立を推進する。	4:全教員で行った。 3:80%以上の教員で行った。 2:60%以上の教員で行った。 1:60%未満であった。	4	2:60%以上 70%未満			C	0	
			4:全教員で行った。 3:80%以上の教員で行った。 2:60%以上の教員で行った。 1:60%未満であった。	4	1:60%未満			D	0	
プラン5 魅力ある教育環境づくり	児童・生徒が安全・安心に学校生活を送るために、教員の指導力向上と良質な教育環境をつくりまします。	授業公開日の授業評価を、その後の授業改善に生かす。	4:「おおむねできた」と全教員が回答した。 3:80%以上の教員が回答した。 2:60%以上の教員が回答した。 1:60%未満であった。	4	4:60%以上	92%	昨年度から、校内研究で、東京大学名誉教授市川伸一先生提唱の「教えて考えさせる」授業を算数科で行い、市川先生の指導の下、主体的対話的で深い学びに資する教員研修を行い、授業改善と児童の学力向上に取り組んできた。今年度は、「教えて考えさせる」授業スタイルを音楽、図工、家庭科にも広げ、全教員が1回研究授業を行った。	A	5	○「教えて考える授業」、興味深いです。児童アンケートで、「進んで手を挙げる」の肯定的回答が3分の2程度です。積極的に児童の発言を引き出すことが大事だと思います。 ○小学生の頃は、私がそうであったように、自分の知っている知識を自慢して答えをすぐに言うお子さんが多いのもあります。考えて様々な考え方や意見・プロセスを大切にしたいです。どうしてもネットで検索して安易に答えを求めようとする傾向が強くなってしまいかと思います。 ○令和2年度新型コロナウイルス感染症の影響で、保護者のみの授業公開となり様子が分かりません。
		授業改善セミナー等の研修成果を生かし、主任教諭が助言・支援を行う校内研修等を実施しOJTを充実させる。	4:学期に2~3回(年間6回)以上行った。 3:学期に1回(年間3回)以上行った。 2:年度間に1回以上行った。 1:実施しなかった。	3	3:50%以上 60%未満		保護者アンケートの「先生は分かりやすい授業をしている」と回答した割合	B	1	
		各種研究発表会等の研究・研修の成果を、自身の授業改善に生かす。	4:「おおむねできた」と全教員が回答した。 3:80%以上の教員が回答した。 2:60%以上の教員が回答した。 1:60%未満であった。	4	2:40%以上 50%未満		指導教諭の模範授業に積極的に参加し、参加者は、職員会議後に時間設定し、校内で研修の還元を行った。	C	0	
		校内委員会等を確実に実施し、学校における特別支援教育を推進する。	4:月1回以上行った。 3:学期に2~3回行った。 2:学期1回以上行った。 1:実施しなかった。	3	1:40%未満		今後も、より児童が「分かった」「できた」という声を聞くことができるよう授業改善を進めていく。	D	0	
		「主体的・対話的で深い学び」を実現する「教えて考えさせる授業」の実践に取り組む。	4:全教員で行った。 3:80%以上の教員で行った。 2:60%以上の教員で行った。 1:60%未満であった。	4	1:40%未満					
一プランとなる学校・家庭・地域が担う役割などを明確にし、地域に開かれた教育の実現を目指します。また、相互の連携を深め、子どもを育てる仕組みを作ります。	教育目標・学校経営方針・学校評価等の基本情報、児童・生徒の活動情報等をホームページ等で公開及び更新することにより、積極的に情報を発信する。	4:月1回以上更新した。 3:学期に2~3回更新した。 2:学期1回以上更新した。 1:更新しなかった。	4	4:60%以上	94%	土曜補習教室では、学校支援地域本部が取りまとめ、毎週、教員とともに平均10人地域サポーターが支援に加わり、地域と一体になって、子どもたちの学力向上に取り組んでいます。	A	4	○朝のあいさつや、チャイムが鳴って教室へ入室と入っていき、20分休みに元気に校庭で遊ぶ姿。ON・OFFの切り替えが出来ているので安心しています。 ○スクールサポートは毎日、朝のあいさつ運動をはじめ、読み聞かせや外国語等のボランティア団体が常時学校と連携して活動しています。 ○コロナ禍、地域、町会の優しさ、地域の子どもの見守り姿勢に感動しました。土曜補習教室は子どももふれあう楽しい時間です。学校が大好きになるために、いっぱい褒めたいと思います。 ○地域と協力する機会が減った1年でしたが、地震や風水害は、コロナ禍でも起こります。学校防災活動拠点の体制づくりと訓練は、学校主導で進めていきたいです。	
		地域教育連絡協議会において、児童・生徒の姿容等の具体的な資料を作成して、評価に必要な学校の情報を適切に提供し、適正な評価を受けるよう努める。	4:毎回情報を提供した。 3:おおむね情報を提供した。 2:あまり情報を提供しなかった。 1:情報を提供しなかった。	3		3:50%以上 60%未満	今年度は特に、保護者や地域から頂いている学校や子どもたちへの様々な支援について活動の認知度を上げるため、学校便り等を活用し紹介できるような心がけた。今後も学校便りやHP等で学校から積極的に発信できるようにしていく。	B		2
		学校支援地域本部と連携するなどして、地域力を生かした特色ある教育活動を実施する。	4:学期に2~3回行った。 3:学期1回以上行った。 2:年1回以上行った。 1:実施しなかった。	3		2:40%以上 50%未満		C		0
			4:全教員で行った。 3:80%以上の教員で行った。 2:60%以上の教員で行った。 1:60%未満であった。	4		1:40%未満		D		0

○「成果評価」は、各校が4段階で定めた成果指標によって行う。  
 ○記入にあたっては、各学校で取り組んでいる自己評価項目に照らし、該当する項目を取りまとめる。  
 ○学校関係者評価の「評価」は、A:自己評価は適切である B:自己評価はおおむね適切である C:自己評価は適切ではない D:評価は不可能である の4点について、評価した人数を